

# 2009年度 一橋大学 前期 国語

## 問題一

問い一 A 吟味 B 普遍化 C 消耗 D 没頭 E 統御

問い二 a 似たり寄ったりでどれも大したものではないこと。

b 書いてある事の言外の意味まで読み取ること。

問い三 二元性を基底にもち合理性を追求する西洋的な知性は、主客未分以前の根源に触れることができないから。(48字)

問い四 混沌を命名し分節化することによって具体性のない二元的対立が実体化してしまうこと。(40字)

問い五 万物を産出し包容する根源を重んじること。(20字)

## 問題二

問い一 摂生(養生)と治療

問い二 政治が眼前の急にとらわれている時に、学問が将来的な方向を示すことによって国家の難を救うこと。(46字)

問い三 近代国家の創業期とは違い体制が整ってきた現在でも、政治と学問・教育の分離がなされていないから。(47字)

問い四 学問は長期的な視点を持つものでなければならぬのに、社会の変化に即応すべき行政の支配下に置かれると、学風が社会変化に左右されることになり、学問の本質をそこなうことになるから。(87字)

## 問題三

文字、書物は本来備忘的な役割にとどまるものであるが、書物から新しいことを学び得ると錯覚することで生きた精神との対話のなかから考えたり学んだりする可能性が失われるおそれがある。しかし現在の大衆社会でその場限りのデマゴギー的な演説に扇動され、正常な判断力が奪われる危険性が増大している以上、一種の恒久性をもち、くりかえし読むことによって冷静な判断を可能にしてくれる書物には有益な存在意義も認められる。

(198字)